

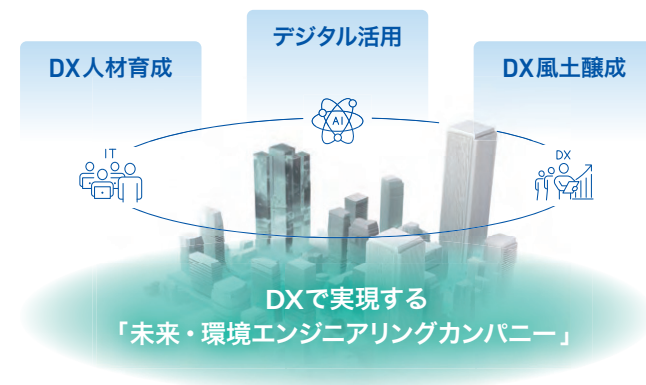
特集2 ➡ Shinryo DXの未来像

デジタル技術の進化によって暮らしや働き方は大きく変化し、企業には持続可能な成長と社会課題解決の両立が求められています。新菱冷熱は、こうした変化を的確に捉え、DXにより未来を創造し社会の持続的発展に貢献します。

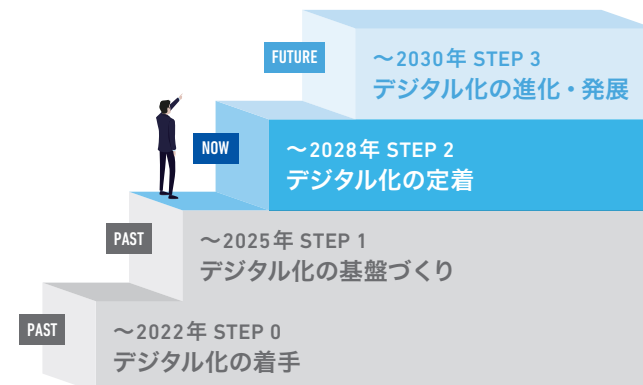
■ 新菱冷熱のDXビジョン

建設業が抱える人手不足や長時間労働といった課題の解決が求められる中、新菱冷熱はDXにより業務プロセスを変革することで、脱炭素社会の実現に貢献する「未来・環境エンジニアリングカンパニー」を目指しています。デジタル化の基盤づくり(STEP1)が完了し、デジタル化の定着(STEP2)に向けて、取り組みを進めています。

DXビジョン



DX実現へのロードマップ



■ Shinryo DXの今

デジタル化の定着(STEP 2)に向けて、社内ルールの整備や推進体制の強化など、データを活用した施工プロセスへの変革を進めています。また、先端デジタル技術の導入にも力を入れています。

デジタル活用による 施工業務の効率化

業務プロセスの標準化・デジタル化により、施工業務の効率化を図っています。

資機材の発注や工事の進捗状況をBIMデータ上で管理し、クラウド環境を通じて関係者へ共有することで、効率化を図っています。

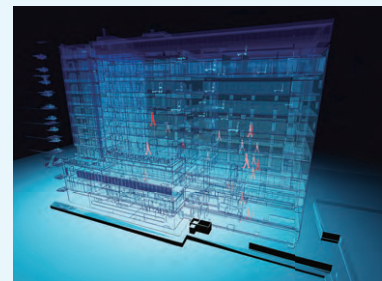


BIMによる資機材の発注管理
(緑は発注済、ピンクは未発注)

先端デジタル技術への挑戦

デジタルツインやAI自動作図や自動積算など、先端デジタル技術を試験導入しています。

デジタルツインにより作業員や仮設材の位置情報を可視化して工事の状況を把握するなど、施工管理の効率化を推進しています。



新本社建設におけるデジタルツイン活用

ルール整備と DX推進体制の強化

効果的なデータ活用のルールを整備し、データドリブンな業務への基盤づくりをしています。

また、デジタル知識を業務に活用できるDX人材を育成し、DX推進体制を強化しています。



DX部門によるAI活用教育

■ Shinryo DXで目指す姿

DXによる業務変革を着実に進展させ、2030年までにBIMやAI、デジタルツインなどの先端デジタル技術を、あらゆるオフィス・施工現場で活用します。Shinryo DXを実現し、「未来・環境エンジニアリングカンパニー」へと成長を遂げ、2050年カーボンニュートラルの達成を目指します。

2050年 カーボンニュートラル

2030年のShinryo DX データドリブン経営を実現



新菱冷熱が取り組む重要課題



脱炭素社会への
貢献



レジリエンスな
社会への貢献



安全で高効率な
業務プロセスの
実現



さわやかで
創造性に富んだ
環境づくり